

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600422	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年3月30日
法人名	社会福祉法人ラファエル会		
事業所名	グループホーム 夢かご		
所在地	( 252-0181 )		
	相模原市緑区佐野川 2 0 3 6 - 1 4		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者のお気持ちや持てる力を大切に、共に過ごしていく中で、認知症の進行が少しでも緩やかであるよう穏やかな日常に心がけ、日々の接遇や介護に努めています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年11月19日	評価機関 評価決定日	平成27年3月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は、南方に武田信玄の陣があった鷹取山を望む自然豊かな佐野川地区の丘陵地にある。JR中央線上野原駅より富士急バス井戸行きで約12分の「御霊」バス停下車徒歩約3分のバス通り沿いに建てられた山小屋風の木造平屋である。道路寄りには小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。  
玄関を入ると、内部は木の温もりが感じられる造りで、法人の介護施設の設計思想を採用して共用空間が広々としている。1階には職員詰め所を中心に左右に各ユニットが配置され、職員は双方を見渡してユニットの区別なく見守りや支援を行っている。特に夜間はサポートしあってきめ細かくケアを行っている。木造のベランダに面したりビングでは、吹き抜けの天窓からやわらかい光が差し込む中で、利用者はのんびりと新聞や本を読んだりテーブル越しに話をしたりパズルを楽しむなどしている。事業所内はオール電化でユニットごとにオープンキッチンが設置され、職員は利用者を見守ったり会話を交わしながら調理や配膳などを行っている。  
**【理念に基づいた、利用者が楽しめるような支援】**  
法人の理念、運営方針、サービスの心得は、玄関などに掲載され、申し送りなどで唱和し職員に周知徹底している。職員はサービスにおいて、利用者に明るく、楽しく、温かく接することで相手にもそれが伝わることを意識してサービスに従事している。  
調査訪問時には、職員が利用者に優しい声かけをして一緒にレクリエーションしたり介助をしていて、和やかな雰囲気が醸し出され、職員も利用者も笑顔が多く見受けられた。午前中にはユニット別に職員がプログラムを考案して、体を動かしたり、問いかけに声を出して答えたりするなどのアクティビティを行い、午後は、希望すれば併設の小規模多機能型居宅介護に出向いて参加できるなど利用者が楽しめるように支援している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 夢かご
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム 夢かご
ユニット名	たんぼぼ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	唱和を朝礼やミーティングの都度行い、理念にもとづいた介護の実践に心がけている。	管理者は、法人の理念や方針と共に「明るく、楽しく、温かく」というサービスの心得を大切にしている。職員は自らが心得を持って接することにより、利用者が明るく、楽しく、温かい暮らしを送れるようにサポートしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を主軸とし、地域住民との意見交換をおこなっている。また、地域清掃作業や消防訓練などへ参加しています。	自治会の一員として地域の清掃や防災訓練に職員が参加し、地域の祭りの御輿が立ち寄って利用者を楽しませている。小学生が社会学習で、合唱の演目や利用者が楽しめるようなゲームを考えて来訪し、交流している。エレクトーン演奏などのボランティアが来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や認知症に対する相談に応じ、介護保険サービスへつなげる協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の話し合いを通じ、事業所のあり方を考える参考にさせていただいている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年6回開催している。参加者は、自治会会長、老人会会長、民生委員、緑区高齢者相談課職員、地域包括支援センター職員、事業所職員である。会議内容は運営状況などの報告と、意見・情報交換である。	運営推進会議に利用者の家族の参加を呼びかけ、事業所や参加メンバーと意見交換が行われることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に密接な連絡調整は行なえていない。	緑区の職員と運営推進会議を通じて情報や意見を交換している。藤野まちづくりセンターと連携し地域の住民との交流を深めている。地域住民の状況に精通している藤野駐在所の警察官が、利用者の状況確認に来訪している。市の「さがみはら・ふれあいハートポイント事業」の協力事業所である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、身体拘束を学び、日ごろの接遇に留意している。	運営規定や契約書に身体拘束排除の方針を明記している。身体拘束排除や高齢者の虐待防止について職員研修を行っている。各ユニット出入口は施錠していない。玄関も原則として施錠しないが、新規入居者の不意の外出に備え今のところ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テキストを活用し、介護事故、身体拘束とともに、勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体への周知はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	忌憚のない意見をいただけるようアナウンスを行い、会議等で検討し反映している。	家族の来訪が多いので、その際に意見や要望を聞いている。電話で利用者の様子を伝え、要望を聞くこともある。新規契約者の家族の要望で、入居準備のため職員が支援に出向いた事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーションにつとめ、意見をうかがっている。	職員は、毎日の申し送りや会議のときに意見や提案を述べている。居室担当職員が利用者の状態を把握して管理者に伝えている。職員の提案で、睡眠時間が長い利用者にはゼリー飲料で水分を補給している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部との共同により待遇改善につとめている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるかぎり研修に参加させ、事業所でフィードバックさせるとともに、内部研修も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢協の行事や連絡会などに積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の悩みを共有し、事業所としての支援方法を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは本人にやっていた だき、ともに生活する一員としての意識を持っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況をこまめにお伝えし、面会や外出の機会を持てるよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまりできていない。	新しく入居した方と以前からの利用者が知り合いで馴染みの関係にある。旧知の友人や家族からの電話や手紙は取り次いでいる。利用者の知り合いが来所した場合は、お茶などを出してリビングや居室で歓談してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性に留意して食席を工夫したり、必要があれば居室を移動することもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、いつでも相談に応じる旨を伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやコミュニケーションを密におこない、意向の確認に勤めている。	本人の暮らし方や食べ物についての希望は、居室担当職員が中心となって聞き取って気づきノートなどに記入して共有している。意志の把握が困難な人はいないが、日ごろから表情や動作の観察を行って意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階でこれまでの生活背景の把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、コミュニケーションの中で把握している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できている。	計画作成担当者が、本人や家族の意向を把握して介護計画を作成している。サービス内容の実施状況を記録している。カンファレンスで職員の意見を聞き、モニタリングを行っている。計画の見直しは原則3ヵ月ごとで、状況の変化があればその都度実施している。必要に応じて看護師からアドバイスを受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は時系列で詳細に記載し、記録の確認で共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的とはいえない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的とはいえない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、必要に応じて外来の活用をしている。	協力医が月1回来訪して利用者全員を診療している。その後は1日数人ずつ診察をしている。常駐する看護師が健康チェックを行っている。以前からのかかりつけ医の受診は家族対応であるが、希望があれば支援している。歯科医が毎週、治療と口腔ケアに来所している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師を配置しており、医療的な助言をうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へのお見舞いやMSWとの連携を図り、情報共有につとめている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医のムンテラに施設側も立会い、十分な説明と施設でできることなどを綿密に話し合っている。	利用者の重度化が進み終末期の状態になったときに、「看取りに関する指針」を説明し、家族・医師・事業所が話し合い、家族の意向を受け入れて看取りを行っている。日中は看護師が常駐し、協力医は24時間対応である。	これまでの看取り介護の経験を生かして職員研修を行い、看取り介護の基本的な注意事項や心構えを周知徹底することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応には不安がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	できている。	防災訓練は、通常は消防署立ち会いと自主訓練で年2回実施している。今年度は職員配置の関係で、年内に消防署立ち会いで夜間想定訓練やAEDの操作訓練を行う予定である。災害備蓄は不十分である。	火災、地震、豪雪など種々の災害に備えて、職員を含めて3日分以上の飲料水、食料、備品等を備蓄し、備蓄台帳で管理することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている。	職員は、介助の際の声かけはいいねいに、排泄誘導はさりげなく行っている。管理者は、職員の言動に気になる点があるときはそれとなく注意している。リビングのカーデックスは伏せて置いている。個人情報のある書類は事務室のキャビネットに施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き出すようにコミュニケーションに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている。	食材は、生協に毎週発注して配達されている。菜園で採れた旬の野菜を取り入れている。メニューは職員が利用者の状況などを考慮して作成し、出来たての食事を出している。職員全員が同席して同じものを食べ、必要に応じて手助けしている。秋の外出行事で勝沼にぶどう狩りに行き「ほうとう」を食べた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できている。	排泄は、ほとんどの利用者が自立で自分でトイレに行き報告してくれる。必要に応じて職員が支援している。排泄チェック表や本人の様子を見て声かけすることもある。浴室の隣にトイレがあり、失敗したときはさりげなく処置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	決めている。	入浴は原則として週2回である。利用者の希望や状態により柔軟に対応している。シャワー浴や清拭に変更することもある。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯などを楽しんでもらっている。浴槽は両面から介助できる配置で、必要に応じて2人介助を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に応じて対応するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的とはいえない。	敷地が広く散歩道が作られ、テーブル、ベンチなどが置かれた休憩場所がある。天気が良ければ利用者を連れて毎日散歩している。リビングの前には広い木製のベランダがあり、ひなたぼっこを楽しんでいる利用者が見受けられた。外出行事は花見、こいのぼり見物、ブドウ狩りなどに事業所の車で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	両ユニットが職員詰め所をはさんで同じ階にあり、リビングは仕切を外すと広くなってイベントなどに利用出来る。ベランダも同様にプランターの花を眺めたり日光浴や外気浴をしたり、洗濯物を干したり出来る。壁には利用者の習字や塗り絵、折り紙の作品が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	居室には、空調設備・照明器具・整理ダンスが常備され、洗面台と物入れが設置されている。利用者は好みの防災カーテン、ベッド・寝具、衣装掛け、テレビ、ラジカセ、家族の写真など好みのものを持ち込み自分の部屋にしている。居室入口は廊下に平行ではなく角度をつけて、戸を開けても見通せないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 7-16-70ホ-4 夢のこ

作成日 平成27年3月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災備蓄品の整備	25名3日分の備蓄水と非常食の整備	備蓄水と非常食の購入	平成27年3月
2	3	運営推進会議への家族参加	家族への説明と、会議参加の依頼。	参加依頼の文書を送付する。会議参加を促す。	平成27年4月 平成27年5月
3	12	看取り介護の注意事項や心構えの周知徹底	過去の経験を職員へシェアする。内部研修を実施する。	看取り経験の情報整理とそれに基づいた研修の実施。	平成27年4月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。